

首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて提案を受ける

首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて

設備・電気部門では、首都圏での地上設備故障発生時に即時に対応するため、JR・パートナー会社一体となった復旧拠点の配置や体制を強化してきました。

今回、輸送影響度や出勤実績を勘案し、生産性の向上やコストダウンを図りながら安全・安定輸送を確保できる最適な体制とするため、拠点配置体制を一部見直します。

1 拠点配置体制の見直し

系統	実施内容	開始時期
保線	拝島の拠点を廃止する。	2021年11月1日
	八王子・三鷹の拠点については、JR 社員2名(宿直1名、夜間作業員1名)により早朝時間帯に対応する体制とする。	2021年10月1日
信号	三鷹拠点を廃止とする。 立川拠点の宿直体制及び八王子拠点と拝島拠点の宿直体制(平日は相互宿直)については、JR 社員2名による現行の体制を継続する。	2021年10月1日

2 これまでと変わらない取り組み

- ◆ 拠点配置体制の見直し後も、異常時の早期復旧を目指していくことに変わりはありません。
- ◆ 各箇所で実施している教育・訓練及び支社で実施している合同訓練などを継続することで、異常時対応力のレベルアップに繋がっていきます。

みなさんの意見をもとに安全・安定輸送の確保と異常時対応能力向上させるため、施策に向き合います!!

